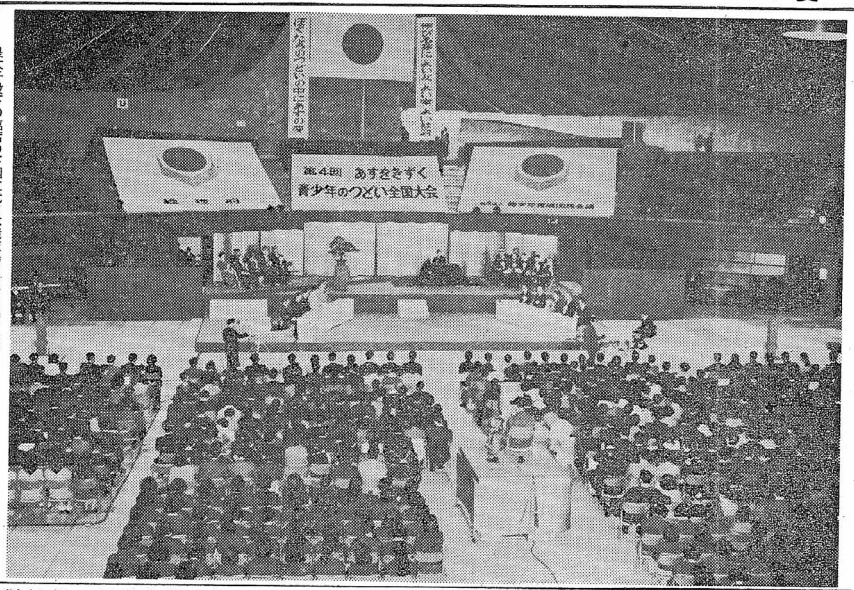
友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽1-7-1
電話 東京（941）2801
編集兼発行人 斉藤 実
定価 1部 10円

新方式で「つどい開催」
・協力体制に力添え望まれる

第四回あすをきずく青少年のつどい全国大会は、昭和四十四年三月二十二日から二十三日まで、オリンピック記念青少年総合センターと国立第二室内体育館において開催された。以前のただ人を集めるという「青少年のつどい」から脱皮をして、現代の若者が意見を充分に交わし、「わたしたちはこう考えこう生きる」というテーマの下で意見を出し合い、二十三日にその代表が体育館につめかけた三千五百名の青少年とともに自らを生み出す努力をした。



皇太子殿下の臨席の下国立代々木競技場につどう若人達

かねてから準備のすすめられていた、第四回あすをきずく青少年のつどい全国大会は「わたしたちはこう考えこう生きる」の主題のもとに、三月二十二日から二十三日までの三日間にわたって開催された。これは青少年育成国民会議と総理府が主催となり、二十一日二十二日はオリンピック記念青少年総合センターで、二十三日が国立代々木競技場第二体育館において開催された。

主題に掲げられた講演は参加者各員に非常に大きな感銘を与え、この講演が青少年代表に与えた影響は今後の青少年活動の指針ともなるものであろうと考えられる。

昭和四十一年から始まったこの事業は、第一回、第二回と東京・武道館で開催されたが、式典のみでなく、もっと実のある内容が計画されるべきであるとの意見が出されていた。昨年の第二回は大阪において開催され、分科会に分かれそれぞれの結論が出された。

本年はその評価の上に立ち、事例討議を二日間、その中で発言力のある青少年の代表として三百四の全国大会の全国の中の大人との対話の中に入れることにより、主題を生かしてゆこうとするものであった。

第一、第二日目は都道府県の五名づつの代表及び中央団体各二名づつの代表約三百名が参加した。開会は育成国民会議、茅誠司会長の挨拶にはじまり、井深大ソニー株式会社社長の講演があおこなわれた。"現代と青少年の課題"と題された講演が参加者各員に非常に大きな感銘を与え、この講演が青少年代表に与えた影響は今後の青少年活動の指針ともなるものであろうと考えられる。

夜は、参加者全員の参加の下に交歓会が開かれ、参加者の親交が深められた。

第二日目は、早朝より五部門に分かれ、事例討議がなされた。"仲間づくりと青少年"、"家庭と青少年"、"青年と青少年"、"職業と青少年"、"政治と青少年"の五つが副主題としてとりあげられた。事例討議は、討議の過程の中から相互の意見の違いの中で自己修正、自己変容を求めようとするものである。それぞれの副主題の中から各参加者が選択はより、二つの課題で討議を重ねた。

この代表の中から各言の活発な人三百人の対話に選出した。

第三日目は、全国代表者と都内各青少年団体の代表約三千五百名が、国立第二体育館（オリンピックでバスケットの会場）になった所に集い、皇太子殿下をお迎えして式典を挙行した。

第二部は前日の事例討議参加者の中からの代表若干、茅誠司、影山裕子、小林茂、福田恒存の各先生方とが意見を交換した。なおこの内容については三月三十日、NHK教育テレビで放映された。

第三部はみんなで楽しく楽しく

各界で重要な働き示す
青年海外派遣十周年記念

世界各地で培った友情と相互理解はいっそう深まっている。

この十年を迎えるにあたり、青年海外派遣関係者が一同に会し、十周年を祝い、旧交を温め、各自の活動について体験を語り合い、あらためて、青年海外派遣事業の意義をふりかえり、現状の認識の下に今後の歩むべき方向を確認しようとするものである。

二十一日は青少年センターに約三百名が泊り込み、各ブロックに分れ、ブロック内での今後の活動のあり方、ブロック会議の開催等について懇談がなされ翌日を温めた。

二十二日は、日青館に会場を移し、約五百名の参加の下に昭和四十三年度派遣団員の寄友会への入会式の後、式典に移った。床次徳次総務長官の挨拶、青対本部次長の経過報告の後、皇太子殿下より親しくおことばを賜った。歴代の関係者よりの祝辞等の後に引いてことばが朗読され式典を終了した。

十一時二十分より「現下の国際情勢について」長谷川才次先生より興味あふれる講演がなされ、祝盃懇親会に移った。

本会ももって多数の会員が海外に派遣されており、祝宴会において久し振の友愛談話に花が咲き、参加者の中でも大いにこの機会を活用したようであった。五百名に及ぶ参加者の下で青年海外派遣の意義がここで力説され、広く国際的視野に立つ青年の育成の為、「百聞は一見にしかず」のたとえの通り、どんどん派遣することが求められた。

こうして、お互が事業の意義を確める合うとともに旧交を温め、午後二時に盛会裡に終了した。

友愛の理論強化して組織を伸ばせ
万難乗越え世界青少年文化祭を成功させよう
若者のつどう友愛未来を開く
我々の力で友愛会館建設を

第十六回全国大会に結集しよう

第十六回全国大会はすでに周知の通り、五月三、四、五日の連休に、友愛山荘で開催される。大会スローガンもすでに決定し皆々大会との準備がすすめられ、友愛山荘でも諸準備をあげて全国大会のために奮している。更に、友愛運動を発展させるため、全国同志が幅井友愛山荘に結集、友愛運動の翔躍を切り開こう。

新方向打ち出される
第十・十一回常幹開催

去る二月九日（日）午前九時より第十回常任幹事会を箱根湯本温泉"翠山荘"、三月三日（日）午後七時より第十一回常任幹事会を本部事務所にて開催した。

第十回常任幹事会は、飯塚祥太郎常任幹事が議長をつとめた。

議題は①第十六回全国大会の内容の取り組みについて、②組織活動について、③東南アジア派遣について、④社団法人日本青年奉仕協会実施"社会フォークキャンプ"参加者派遣についてであった。

①については、昭和四十四年度運動方針の基礎を検討審議し、1、内外の動きと本会の方針、2、青少年の運動をめぐる動きと本会の方針、3、友愛運動の展開をめぐって、4、活動の方向について、を承し、大会募金については、会員一致協力して募金に努めることとした。②は会務報告を中心に説明があり、会員証の取り組み等で、組織委員会で検討する事とした。③は今日のように組織に海外交流が行なわれている状況下では本会として施策する場合、相当の内容を検討しなければならない、今一度国際関係部内で検討する事とした。

第十一回常任幹事会は、斎藤実常任幹事が議長をつとめた。

議題は①第十六回全国大会提出方組織研修会について、②静岡県地協組織研修会（三月二十一日～二十三日）について、③三月二十三日開催"第四回あすをきずく青少年のつどい"全国大会について、④東南アジア派遣について、⑤青年の船の実施について、⑥万博記念世界青少年文化祭、大阪における準備会及び大会募金派遣について、であった。

①は提案者より提出された議題案を慎重審議し了承した。②は伊東支部が主催して、国立青年の家（御殿場）にて開催するので、本部よりの尾形智紹幹事長、渡辺幸窓幹事の派遣を決定した。③は国立代々木競技場第二体育館にて開催するので本会では協力参加することになっており、長田常幹を中心に動員計画を立てる事とした。④は国際関係部門での答申をもとに審議したが、なお徹底するため、再度検討する事とした。⑤は本年も実施する事となり、本会では団員等多数派遣する事とした。⑥は大阪地方の関係者が三月七日に会合を開く事になっており、その説明のため、尾形幹事長の派遣を決定。

①は、先の大会準備委員会にて審議済み。②は、ブロック研修会の開催概要と情宣関係の徹底を期する事とした。③は、伊東支部が主催して、御殿場国立青年の家にて開催するもので、尾形幹事長、渡辺幹事に要請があり、具体案を求めて、決定する事とした。④は国立代々木競技場第二体育館において、三月二十三日に開催されるもので、本会として多数の動員をする事とした。

大会準備委員会開く

去る二月二十四日（月）午後七時より本部事務所にて、第十六回全国大会第一回準備委員会を開催した。

議長は、渡部文雄会場部長つとめ、各部報告から始った。

準備は順調に進んでおり、各部屋も適格なものであった。

議題は、日程、手続関係の確認から入り、大会宣言、大会スローガン、各部提出議題案、大会役員等について、討議決定した。

新生活運動協会評議員会開く

去る二月二十四日（月）午後一時半より"福祉府県会館"大会議室にて、財団法人新生活運動協会（会長＝下藤昭四郎氏）昭和四十三年度評議員会を開催した。

議題は、昭和四十四年度新生活運動方針、事業計画および収支予算の承認についてであった。

昭和四十四年度の運動推進にあたっては、"地域"に結びついた方向で進める事を中心に幅広く展開してゆく方針が決議決定された。

第七回執行部会議

去る二月二十四日（月）第十六回全国大会準備委員会終了後、本部事務所にて、第七回執行部会議を渡部文雄婦人対策部長の議長の下に開催した。

議題は①第十六回全国大会の取り組みについて、②組織拡充について、③静岡県地方研修会について、であった。

①については、先の大会準備委員会にて審議済み。②は、ブロック研修会の開催概要と情宣関係の徹底を期する事とした。③は、伊東支部が主催して、御殿場国立青年の家にて開催するもので、尾形幹事長、渡辺幹事に要請があり、具体案を求めて、決定する事とした。④は国立代々木競技場第二体育館において、三月二十三日に開催されるもので、本会として多数の動員をする事とした。

言
直

◆昭和四十三年度も終り、新しく昭和四十四年度に入った。まさに、歳月人を待たずの感強じである。思い返せば、充分なることのできないままに一年を終えてしまったという悔いは残る。しかしながら、その時点、その時点で思いつり悔い当てきているという自信があれば別である。とはいえ昨年度の本年五周年の年であったことを考えると、計画だけ消化してきたというだけでは済されないものが残るとほかにしたくないことである。

◆この時にあたり、傘下各組織でも、一つの区切りの意味で一年の評価を、それぞれおこなうことは意味のあることである。その評価をもとにして、第十六回全国大会に結集し、充分に討議を重ねるならば、ここに新しいエネルギーが生まれることになるであろう。立場機関の違う者同志が、一つの目的に向って進むとき、最低の無い意見の交換により、共通意識が生まれ、何物にも代え難い強いエネルギーを生み出すと信じる。

◆本年度の方向として、議題案の中に盛り込まれているものは、友愛運動の体系化、財政の確立、友愛会館建設の具体化の三本の柱であろう。事業においては、移動文化講演会が新規事業として取りあげられている。全国を地でこの講演会が進められた、"友愛"の二つのブームが起こると必至であろう。研修会での指導者の養成もまた本年度の特徴である。一つ一つの事業は各組織が中心となり、組織の連繋のために"道しるべ"が縦横に活躍し、文字通り道しるべとなることであろう。

◆友愛運動の新たな地開きが開こえて来るようである。全国を動かす友愛の強い同志の歌声が聞こえてくるようである。十五周年を一区切りとすれば、本年度は新たなスタートでもあり、継続でもある。燃ゆるがごとき同志の意気は炎となって幅共沢に結集されることであろう、青年は未来に向って生き、全国同志の火花が散るような熱のこもった討議が明日の友愛を輝やかしい未来を開くものと信じる。

今年も頑張ろう!!

和尚

第一号議題

昭和四十四年度運動方針について

（一）内外の動きと本会の方針

重大な国際的な問題が解決をみないまま一九六九年を迎えたが、そのため現在の解決を迫られている。パリにおけるベトナム和平会談、中東のアラブ・イスラエル紛争、チェコ問題、ドル減の先行き不安等である。これらの責任をどの国よりも負う身に強く感じているのはアメリカであり又当然であろう。

アメリカは国の内外にわたってあまりにも多くの問題をかかえすぎている。ベトナム、中東、ドルの三大難問の他に軍事面での対優位の確立、黒人問題などをかかえ、その国の問題はたとえ「おむすびころりん」でも見元に次がつかないあいだはお構いできないというようなうである。

重荷にあえぐアメリカは、ヨーロッパの諸国にたいし、またアジア、アフリカ、ラテンアメリカの各地域にたいしてこれまで以上に強く「自助」の態度を要求し、それによって重荷の軽減に努めるであろう。

ニクソン大統領は「各地域の安全保障の責任は、各地域の要が国が負い、アメリカはこれを背後から援助する」という基本的な考え方を示している。

アジア地域の豊かな国といえばさしずめ日本よりほかにない。つまり日本がアジア地域の安全保障の資任を負うことになるのである。

我々は戦争、紛争の解決はあくまで国際連合を中心に国連の場でおこなわれ戦争のない平和な世界の実現を希求するものである。

国内においては、我々の最も関心の強い大学問題は、東京大学、東京教育大（体育学部を除く）の入試中止が確定し、新しい設階に来た、また全国の国、公、私立大学では紛争が続き入試実施が学内で実施できず学外でしかも機動隊の警備のもとにおこなわれる、といった事態に直面している。これは大学を志す者に及ぼした多大の影響のみではなく、大学のあり方についての問いかけを国民の間に発したのである。

一九七〇年は日米安保条約の改定期である。今年は、この問題に対する動きが活発になりつつあるすでに反対、賛成の両派の言論戦が展開されつつあり、ますます対立が深まるであろう。

我々は我国のおかれている現状、将来の方向等をみきわめこの問題に対処しなければならない。沖縄返還は日本国民の悲願である。我々はこの悲願達成のために全力をつくさねばならない。返還の条件はあくまで本土なみであり核抜きではければならない。我国固有の領土である北方領土の返還については関係各機関団体と協力してねばり強く運動を進めていかねばならない。次に問題になるは、物価問題、開放経済問題（貿易自由化）、労働問題である。日本経済は高度成長をとげてきたが物価はうなぎ上りに上昇を続け、蒸着くとこう知らない。経済は高度成長すると物価が上昇し国民生活は苦しくなるのである。

日本経済も開放経済の時代に入って来た。日本経済発展に伴に諸外国が貿易自由化を迫ってくるし我国もこれをいつまでもおさえつけることはできない。開放経済に対処できる方策が望まれて来る。労働力の不足は深刻な問題になりつつある。

以上のように我々をとりまく内外の情勢は誠にきびしい。このような時代に生きる若者として平和な世界、福祉国家の実現をめざし友愛運動を続けている若者としてこれらの苦難にぶつかりながらもくじけることなく一歩一歩前進していかねばならない。

（二）青少年運動をめぐる動きと本会の方針

我々は以前より政府の青少年対策に対しいろいろ意見を述べて来た。特に青少年対策を恒常的に進めるため青少年省の設置を要求して来た。しかるに現状では進展は みられず、どちらかと言えば後退気味である。我々は国家の将来をになう青少年に対する取り組みはあくまで前向きでなければならないと考え、この立場から政府をはじめ関係機関に強く要請してゆく。一九七〇年には大阪で万国博覧会が開催されるがこの機会に世界の青少年の参加を求め、我国青少年の参加のもとに「国際記念世界青少年文化祭を開催する準備が進められている。これは、日本の青少年運動にとっても、本会にとっても意義深いものであり積極的に協力する。また中青連の強化、青少年育成国民会議の充実のために努める。

（三）友愛運動の展開をめぐって

友愛運動は十五周年を終了し十六年目に入った。友愛十五年の歴史は苦難の連続であった。また幾多の貴重な歴史でもある。

我々は過去の反省と評価に立脚し次の時代に向って進まねばならない。

本年は特に友愛意想の体系化に努め、それをもとに学習活動を強化し友愛社会実現のための実践活動を展開してゆくべきである。さらに友愛運動の国際化につとめなければならない。

（四）活動の方向について

（イ）友愛主義を基調とする諸活動をおこなうが

（ロ）特に本年は活動の中に時事性を取り入れ

（ハ）さらに諸活動のマンネリ化を克服し積極化につとめる。

資具体的な方針

①友愛意想の体系化

理論委員会を設置し友愛意想を研究しさらに関係者より意見を求め体系づけにつとめる。

②友愛理論の学習強化

役員はもとより全会員が友愛理論の学習につとめる。

研修会、学習会を充実させる。

③友愛理論の具体的実践

学習によって身につけた理論を具体的な実践活動に移すようにする。

④政治学習の強化

われわれの日常生活は政治と密接な関係がある。

友愛の諸活動も政治との関係が深いさらに友愛社会の実現には政治を無視することができない。われわれは政治学習を強化しなければならない。

⑤組織活動の積極的推進

根本的な組織対策を検討し組織の拡充につとめ組織委員会の強化

⑥広報活動

機関誌"友愛"の内容について再検討するとともに広報委員会を充実させ広報活動を活発にする。

（友愛に関する論文、また会の動機、入会して良かったこと等の体験談を会員より募集し記載してゆく）

⑦学生部の育成強化

本会の将来をになう学生部の組織内容面からの育成強化につとめる。

⑧特別委員会の検討

現存する特別委員会について再検討しその性格づけを明確にするとともに、性格のはっきりしないものは整理統合してゆく。

⑨友愛会員の建設

友愛運動のメッカとして友愛会館の建設に様々の悲願である。これを実現するため財団法人日本友愛青年協会、友愛クラブ、友愛婦人会、関係者と協議し準備にとりかかる。

⑩社会教育活動

本会の目ざす友愛社会は福祉国家の実現であるといえる。

その意味からも社会福祉活動に重要な意義を持つ、従って本年も積極的に推進して行かなければならないが目的のはっきりしない行事は整理統合してゆく。

⑫平和運動の推進

世界の進歩とわが国の繁栄は平和であるからである。

平和は自然にとびこれるものではなく、人類がこれを勝ち取らねばならない。この意味からも本会は平和運動に参加し平和のために努力しなければならない。核兵器禁止運動等への参加

⑬国民運動への参加

国民の願望を達成すべく展開される国民運動へ本会は友愛意想を基として参加する。沖縄問題の解決促進、北方領土問題、青少年育成国民会議、体力つくり国民会議等である。

⑭スポーツ、レクリエーション活動

青少年の若い力を健全に伸ばし心身ともにすこやかに成長させるスポーツ、レクリエーション活動はなくてはならないものである。

友愛体育祭、サマーキャンプ、野外活動等

⑮国際交流活動

次代をになう世界の青少年が交流し相互理解につとめる。ことに各国の将来のために世界平和のために必要なことである。本会としても出来る限りの多くの機会に交流を行う。さらに一歩前進させ友好親善の目的を同じうする団体とは姉妹関係を結んで行き友愛運動の国際化につとめる。

⑯財団法人日本友愛青年協会との連絡の強化

友愛山荘宿泊者に対する入会促進

友愛会館の建設等のため今まで以上に連絡を密にし人事の交流等も考える。

⑰友愛クラブ、友愛婦人会と緊密な連絡

友愛青年同志会の先輩方々の集いである友愛クラブと同じ友愛運動を行っている友愛婦人会とは緊密な連絡をとり物質面からの指導を受ける。

⑱財政の確立

諸活動の展開するには財政の確立が必要である。財務委員会を強化し財政確立のため具体策を検討しその実施につとめる。

⑲事務局の整備

多様する友愛運動の中で各部の要求を適格に処理し運動発展のもとになるべき事務局体制を確立する。適材適所主義を貫き人事配置を考慮する。

第二号議題

昭和四十四年度予算について

昭和四十四年度予算を次の通り提案する。

本年度運動方針のうち、理論の体系化、財政の確立、友愛会館建立具体化が三本の柱になっている。事業計画においても、一般事業の多くは傘下各組織が主体となって活動を展開することになり、事業面においても、三本の柱に主力を注ぐ、という方針になっている。

その中で財政の確立は、㈠会費収入面が活動の進展に合せ促進されなければならない。また、既成の賛助会員（含む法人）への働きかけ、新規開拓にも努力を向けなくてはならない。

㈡会費の徴収については、本会の運営が会費によりすすめられることが本来の姿であり、その一方、会費納入方法制が四十二年度より実施されている。本年がその三年目に当り、その徹底により、一人一人の会員により本会が運営されているという姿を実現するものであるから、慎重に、かつ大胆に、積極的に取り組まなければならない。

㈢出版販売の促進について、本会のバックボーンとしての友愛理想は出版物を媒体としての啓蒙が大きな比重をにめるものである。

㈣"友愛"の有料購読者の増加

㈤"友愛の理論と実践"の販売促進、㈥力価著書の販売、等により友愛理論体系化と並行して出版物の有料販売に努める。

こうして、収入面において、本部会費、出版収入、賛助会費等の増収による安定財政を維持し、支出面については、経理、運営面での無駄を排え、事務機構の充実により、本年度事業推進に支障の無きよう努める方針である。

これにより、本会が一層発展すべき年であろう。そのシステムと会費の徴収に全力を傾けるとともに、各組織の多大な協力を願わなくてはならない。

組む姿勢が前面に押し出されるものである。

最良の貯蓄
ワイド
割引債
リッキー
利付債
おハガキ下されば"案内書"進呈
日本興業銀行
東京・千代田・丸の内

第五号議題

万国博記念世界青少年文化祭について

標記文化祭への本会の取り組みについて、次に提案する。

国家と民族の発展の基礎が人にあり青少年が心身共に健全に成長するか否かは、次代を担う意味から国の盛衰を左右する鍵であることはいうまでもない。

一九七〇年は、「人類の進歩と調和」をテーマに大阪で開催される万国博覧会は、アジア地域において、初めてであり世界産業オリンピックとして、日本の産業、文化を世界に紹介することからもその意義は大きい。

万国博覧会は、子供から大人、更に老人に到るまでの夢の祭典である。世界産業オリンピックと夢の祭典の両面を持つ万国博覧会の意義は（1）日本の産業、文化の総結集を世界に紹介する。（2）世界産業オリンピックとしての中で、日本の産業、文化の国際的地位が確認できる。（3）日本の産業のリーダーとしての発展の基礎ができる。の三点を挙げることができる。

それでは、上記の様な意義を持つ万国博覧会の際に同時に開催される「万国博記念世界青少年文化祭」は、これまでの大きな催し行事が、東京を中心にほとんど行われてきた、今回は西日本の中心大阪で開催されるのであるが日本の経済、文化等の各方面で日本の発展に寄与できる。

次代を担う青少年に与える大きな意義並びに影響を持つ万国博覧会、万国博記念世界青少年文化祭は、これまでの大きな催し行事が、東京を中心にほとんど行われてきた、今回は西日本の中心大阪で開催されるのであるが日本の経済、文化等の各方面で日本の発展に寄与できる。

四つの目標を達成する為には、本会においては全国組織団体傘下の一丸となって、この事業に取り組まなければならない。それは（1）友愛精神の国内への普及啓蒙活動（2）国内組織の拡大、強化運動―特に大阪周辺―（3）友愛精神の国外への普及啓蒙活動（4）海外姉妹組織確立の為の活動の四つの目標である。

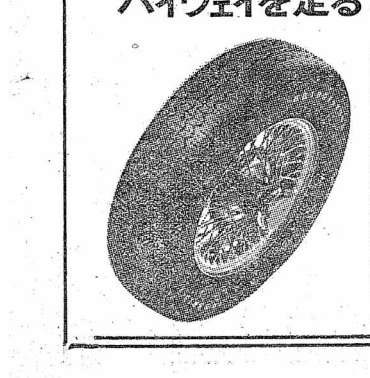
青少年運動においても、上記と同様な傾向があったが、大阪を中心に活躍している青少年団体の結束ができ、更に、青少年運動を国民運動に発展させる大きなエネルギーとなる。

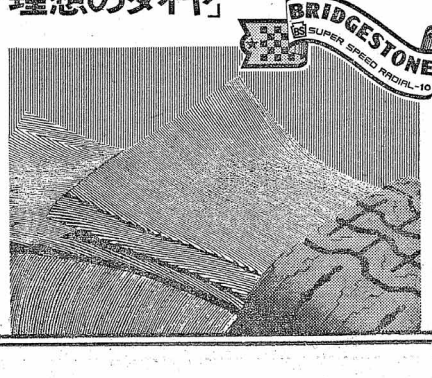
それでは、この事業に積極的には、どうすべきであろうか。それは、本会内に万国博記念世界青少年文化祭特別委員会を設置して、具体的な取り組み方法を検討しなければならない。そこで、具体的に取り組む方法を検討しなければならない。

青少年運動の若いエネルギーの一端を世界に紹介することができる。（3）万国博覧会各国代表の青少年と意見交換、共同生活を通じて国際友好親善を深めることにより、国際的視野に立つ青少年の健全育成並びに資質の向上になる。

青少年の若い青少年に与える大きな意義並びに影響を持つ万国博覧会、万国博記念世界青少年文化祭は、これまでの大きな催し行事が、東京を中心にほとんど行われてきた、今回は西日本の中心大阪で開催されるのであるが日本の経済、文化等の各方面で日本の発展に寄与できる。

ハイウェイを走る「理想のタイヤ」





高速乗用車用タイヤ（スポーツタイプ）
スーパースピード ラジアル-10
高速走行に驚異の威力を発揮
カーカスが放射状の糸で構成され、特殊コードを使用したブレーカーでしっかり補強した新構造。高速走行時の操縦性・安定性がグーンと向上！　本格ハイウェイ時代の「高速タイヤ」です。
高速にもっとも安全
BS ブリヂストンタイヤ

青年の船 団員募集

総理府が主催している昭和四十四年度「青年の船」は、次の募集要領にて全国の青年を対象に、広報受付を開始していま。

（1）日程訪問国、昭和四十四年九月下旬から十一月中旬の予定　東南アジア諸国（タイ、中華民国、シンガポール、インドネシア、ビルマ、マレイシア）

（2）参加者負担金、参加資用五万円（一人）その他参加者個人

（3）資格要件、国籍（日本人）年令二十才以上三十六才未満の男女身体強健、規律遵守を中学程度の英語を話し、将来社会に貢献しうるもの（既に渡航したもの、都道府県、市町村議会議員学生入除）則として近い将来渡航可能性のある者は除く）

（4）募集方法、都道府県庁担当課で要項提出書類をもらい、組織責任者の推薦の上本部へ申込む、作文テーマ「青年の船」に応募して提出

（5）締切　昭和四十四年四月二十日（必着）

経費は自己負担

第一号議題

昭和四十四年度　事業計画について

本会の昭和四十四年度の事業計画を運動方針に基き、従来の反省と成果の上に立ち次のように提案する。

一、友愛普及活動

友愛原理の体系化をはかるとともに、一年を三期に分け、普及、啓蒙を全国で積極的に推進する。

（1）文書等、講演会による普及（啓蒙）（年間を通じて）

イ、発行文書等の配布

ロ、一般新聞、雑誌類への投稿

ハ、婦人会との連絡強化

（2）文書による普及（第一期、五月～八月）

イ、リーフレット、パンフレット、機関誌"友愛"の配布

ロ、組織活動方針（別項議題）に従い役員の派遣

ハ（講演会の開催）

（3）説得による普及（第二期、九月～十二月）

イ、発行文書等を利用した説得

ロ、講演会、研修会、学習会への参加呼びかけによる説得

（4）集中的普及（第三期、一月～四月）

イ、一般新聞、雑誌利用による入会呼びかけ

ロ、発行文書等の集中的配布

ハ、集中的説得

二、学習活動

理論委員会の進行に合せ、友愛思想の学習活動を全国的に展開。また、社会、政治、経済、文化、青少年運動等の学習を深めるとともに、研修、講習会に段階を設け指導者養成に努める。

（1）学習会の推進中央教育指導部、理論委員会、組織委員会等本部の指導、資料提供により、各組織での学習活動強化。

（2）指導者養成イ、地域指導者養成講習会（ブロック単位で開催参加費五百円）

従来のブロック研修会と同格で一泊二日の日程で開催。論文提出により地域指導者とする。対象は支部役員、一般会員。

ロ、中級指導者研修会（年一回開催）―七月下旬、参加費千円、交通費半額自己負担。二泊三日の日程で開催。本会指定団体の研修講習会を受講し、論文提出により、中級指導者とする。地域指導者養成講習会終了者とする。常幹、連合会役員、支部長、活動家を対象とする。

（3）説得による普及（第二期、九月～十二月）

イ、発行文書等を利用した説得

ロ、講演会、研修会、学習会への参加呼びかけによる説得

（4）集中的普及（第三期、一月～四月）

イ、一般新聞、雑誌利用による入会呼びかけ

ロ、発行文書等の集中的配布

ハ、集中的説得

二、学習活動

理論委員会の進行に合せ、友愛思想の学習活動を全国的に展開。また、社会、政治、経済、文化、青少年運動等の学習を深めるとともに、研修、講習会に段階を設け指導者養成に努める。

（1）学習会の推進中央教育指導部、理論委員会、組織委員会等本部の指導、資料提供により、各組織での学習活動強化。

（2）指導者養成イ、地域指導者養成講習会（ブロック単位で開催参加費五百円）

従来のブロック研修会と同格で一泊二日の日程で開催。論文提出により地域指導者とする。対象は支部役員、一般会員。

ロ、中級指導者研修会（年一回開催）―七月下旬、参加費千円、交通費半額自己負担。二泊三日の日程で開催。本会指定団体の研修講習会を受講し、論文提出により、中級指導者とする。地域指導者養成講習会終了者とする。常幹、連合会役員、支部長、活動家を対象とする。

ハ、中央指導者講習会（年一回幡井沢で開催）

四泊五日の日程で開催。従来の幡井沢講習会と同格である本会指定団体の研修、講習会を受講し、論文審査を通れば上級指導者とする。常幹、連合会役員、支部長、活動家を対象とする。

期日・七月上旬あるいは八月上旬（二泊二日）

経費・交通費往復負担（学生は学割）宿泊費負担

場所・未定

（4）第一回オルグ講習会

組織活動方針参照、六月、全国組織委員会

（5）国内外研修会への派遣

文部省、総理府関係団体（国立社会教育研修所、国立青年の家青少年育成国民会議等）中青連レクリエーション協会等の主催する青少年指導研究協議会及びWAYS等の国外での研究協議会に公募選抜し派遣

参加費　原則として本部負担

三、社会教育活動

社会教育の目的に添い一般青少年をも対象とする事業の推進。

（1）友愛移動文化講演会

全国各地において地方文化の興隆、青少年の意識高揚を目的とし、地元教育委員会、友好団体との協力の下に開催。

期日　六月から十二月

開催地　北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、四国九州の主要都市

対象　会員及び勤労青少年、学生、一般社会人

後援　文部省、関係地教育委員会、その他

内容　各方面における青少年の役割、友愛の現代的展開

（2）その他地方における社会教導等行なう。

（3）受け入れ

五、情宣活動

働く仲間、学びの仲間に本会の存在を知らしめ、一般社会の本会への理解を高めるため、本会発行文書等の作成配布、既刊出版物の宣伝、販売、新聞、ラジオ、テレビ等への働きかけを強化する。

（1）友愛の理論と実践Ⅱの発刊

（2）友愛の理論と実践Ⅰの販売促進

（3）機関紙"友愛"の内容検討

六、その他の活動

社会福祉、レクリエーション、体力向上、文化活動、国民運動、平和運動等の活動を組織を中心として開催し、本部で掌握指導を積極的に進める。

第二号議題

昭和四十四年度　組織活動方針について

新しい時代の旗手として本会が結成されて十七年になり、全国多数の同志により組織化が進み、過去三次に亘る五ヶ年計画は困難を克服し、青少年の要求及び激動を把握結集して、初期の目的達成に向って展開され、組織体としての形態を整え、全国組織の確立を果してきた。近年に於ては、青少年団体の中心的役割を果し、指導的立場にあって運動を進めている。

それは、本会の掲げる友愛思想の優秀さを示すものであり、全国同志の固い結束によるものである。

ここ数年、政府に於ても青少年問題を特に重視し、民間の育成運動も強力に展開されているが、経済の高度成長により、全国的な都市集中化現象を招来し、青少年層にも及んでいる。それに技術革新による労働の単純化の影響と人間性の喪失、余暇の増大により、青少年の意識は、益々多様化し、変化してきている。これに対応する為のきめの細かい対策を立てなければならない。常に情況を適確に把握出来る新しい指導者、青少年の志向性に合った活動と指導、これなくしては高い理想を実現してゆく事は困難である。

今日の青少年団体活動の動向をみると、各団体とも、内部の一応の充実を終え、団体相互の協力によって、各種の全国的事業を実施するようになった。さらに世界各国の青少年団体等との積極的交流も実施されており、社会福祉や社会開発への参加が増加してきている。そこで、団体活動を振興していく上に大きな意義をもっていると称せられる各活動家の養成である。各団体とも自己に専念に力を注いでいるが、国及び地方公共団体も助力している。本年は、此の様な中で、運動方針にも盛られている友愛理論の体系化を支柱として、学習活動の強化、指導者の養成を軸として、本部と地方組織が一体となって、積極的な組織活動を展開してゆかなければならない。

そこで友愛理論の体系化を基盤として、①重点組織普及、②組織指導者の養成、③未組織青少年の組織化、④学習活動、⑤事務整理の整備の五つの方向に於て、三ヶ年計画を打ち立てるものである。

この三ヶ年計画によって、①組織普及に於て機能的取り組み、②既成組織の指導、育成の強化、③社会福祉、レクリエーション、体力向上、文化活動、国民運動、平和運動等の活動を組織を中心として開催し、本部で掌握指導を積極的に進める。

第四号議題

昭和四十四年度　組織活動方針について

新しい時代の旗手として本会が結成されて十七年になり、全国多数の同志により組織化が進み、過去三次に亘る五ヶ年計画は困難を克服し、青少年の要求及び激動を把握結集して、初期の目的達成に向って展開され、組織体としての形態を整え、全国組織の確立を果してきた。近年に於ては、青少年団体の中心的役割を果し、指導的立場にあって運動を進めている。

それは、本会の掲げる友愛思想の優秀さを示すものであり、全国同志の固い結束によるものである。

ここ数年、政府に於ても青少年問題を特に重視し、民間の育成運動も強力に展開されているが、経済の高度成長により、全国的な都市集中化現象を招来し、青少年層にも及んでいる。それに技術革新による労働の単純化の影響と人間性の喪失、余暇の増大により、青少年の意識は、益々多様化し、変化してきている。これに対応する為のきめの細かい対策を立てなければならない。常に情況を適確に把握出来る新しい指導者、青少年の志向性に合った活動と指導、これなくしては高い理想を実現してゆく事は困難である。

今日の青少年団体活動の動向をみると、各団体とも、内部の一応の充実を終え、団体相互の協力によって、各種の全国的事業を実施するようになった。さらに世界各国の青少年団体等との積極的交流も実施されており、社会福祉や社会開発への参加が増加してきている。そこで、団体活動を振興していく上に大きな意義をもっていると称せられる各活動家の養成である。各団体とも自己に専念に力を注いでいるが、国及び地方公共団体も助力している。本年は、此の様な中で、運動方針にも盛られている友愛理論の体系化を支柱として、学習活動の強化、指導者の養成を軸として、本部と地方組織が一体となって、積極的な組織活動を展開してゆかなければならない。

そこで友愛理論の体系化を基盤として、①重点組織普及、②組織指導者の養成、③未組織青少年の組織化、④学習活動、⑤事務整理の整備の五つの方向に於て、三ヶ年計画を打ち立てるものである。

この三ヶ年計画によって、①組織普及に於て機能的取り組み、②既成組織の指導、育成の強化、③組織通知を出して確認する。

○支部結成地区

白老、松前、函館、山形、水戸、宇都宮、浦和、金沢、新潟、静岡、浜松、豊橋、大垣、和歌山、鳥栖。

②組織点検

①による組織巡回によって徹底。

○連絡通知を出して確認する。

③会員の整理

①比例代表制による会員の確認

②会員名簿の徹底整理。

④海外組織

○海外友好団体と連絡を密にする。

○優秀な会員幹部を海外に送り連携を強くする。

二、組織指導者の指導強化

本年度から本格的に友愛理論の築成を進めるため、全ゆる手段を講じ、講習会、研修会も内容の充実を図り、三年後には、内容の指導者が養成され、各ブロック、支部に統一的に研修会が開催され、築大成された後に、全国支部長会議を開催して、その成果をもって活動の発展に継ぐ。

①中央指導者講習会

○全常幹、それに準ずる人々を参加させて、徹底指導する。

②山荘を中心とするブロック研修会。

○支部連合会長から、支部長、運動の進め方等を徹底的に指導する

③友好団体等の研修機関

○多くの会員を派遣参加させる

三、未組織青少年の組織化

情宣活動資料を充備し、対外的に積極的にアピールし、拠点を中心に働きかけをおこない、三年後には、職域、職場、地域、サークン、学校等に拠点を作り年次計画修了後には、オルグ会議を開催して、支部結成の足場を作ってゆく。

①リーフレット・パンフレット

新聞等の徹底利用

○街頭に出ての宣伝、アンケート等を利用しての追跡調査をする

②マスコミ等の徹底利用

○各種会合、事業所、学校等に働き掛けをおこない、事業活動をマスコミ機関に流す

③趣味サークルの結成

○各県団、野球部、ハイキング部等の結成を進める

四、学生対策

①大学内における拠点作り

②各種学習会、勉強会の開催

③学生部門のコミュニケーションの緊密化

○横の連絡強化

○大学支部の結成

五、事務処理の整備等

①過去の会員納入状況を調査

○未納組織の整理

○会員に納入方の徹底をする

②文書活動の活発化

○地方短信、報告書等の交換事務の徹底するため、指導書発行

○相互交換の指導

③会員名簿の整理

○各自会員の整理による会員名簿整理

第六号議題

昭和四十四年度　役員選出について

全国組織四章第十四条並びに大会議事規則第八章第二十八条に基づき、昭和四十四年度役員選出の要項を次の通り提案する。

一、名誉役員

（1）名誉会長（一名）

役員選考委員会推薦により推戴する。

（2）顧問（若干名含常任）

役員選考委員会推薦により推薦する。

（3）相談役（若干名含常任）

本部部長により会長より委嘱する。

（4）参与（若干名含常任）

右に同じ。

二、役員

（1）会長（一名）

役員選考委員会推薦により推薦する。

（2）副会長（二名）

右に同じ。

（3）常任幹事（若干名）

多年に亘って本会各種役員を歴任し活動著しい者で、常時本会を代表して各組織会合に出席可能な者の中から全国的規模で選出し、役員選考委員会で二指推薦する。

（4）幹事（若干名）

各ブロック及び学生部より選出した者を、本部部長者と合せて役員選考委員会に於て審査推薦する。

（5）幹事長（一名）

常任幹事中より役員選考委員会で推薦する。

（6）事務局長（一名）

右に同じ。

（7）監査（二名）

幹事中より役員選考委員会で推薦する。

（8）統制委員（若干名）

常任幹事、幹事、一般会員から役員選考委員会で審査推薦する。

三、役員選考委員会

役員選考委員会の構成

役員選考委員会は各ブロック及び本部より各一名、学生部より二名を選出した委員及び大会正副委員長並びに事務局長の十六名をもって構成する。

四、役員の立候補

役員に立候補もしくは推薦する者は本人もしくは推薦者よりその所属支部（地区、大学）氏名、職業、年令を明記の上五月四日午前十一時までに申請する。

第七号議題

大会宣言について

ここ軽井沢友愛山荘において友愛青年同志会員の栄ある第十六回全国大会に全国同志は明日へのよりの発展をめざして結集した。

友愛精神を体し、全国各地で友愛運動を通して、豊かな社会の繁栄の為に、若人のエネルギーをゆるまず燃やしつづけている我等同志が、再びこの由緒ある新緑の友愛山荘に相集うことが出来たことを共に喜ぶものである。

今日の社会的状況を見聞するにつけ、青年の社会的使命の大なることを、我々は再認識せざるを得ない。このような時に当り、我々友愛青年同志会が、青年活動の中にあって、国内的にも、国際的にも、身をもって友愛精神の実践化を実践し、同志相互の研鑽に努め併せて運動の普及と拡大に邁進しなければならない。

ともすれば、科学技術の偉大な驚異的進歩の中で、人間性を失いがちな今日に生きる人間として、相互尊重・相互理解・相互扶助を原則とした友愛精神に基き、社会の生きる指針に他ならないと信じるものである。

我々同志は、この友愛精神の輪を拡げ、且つ相互の啓発に努め、人々の燃えつづきる心を世界の平和と福祉の向上のために捧げることを誓うものである。

第十六回友愛青年同志会全国大会

超高層のあけぼの

オールスターキャストによる壮大なスケール！
映画界の常識を破った芸術巨大編である

地震国日本に初めて誕生した超高層『霞が関ビル』建設の物語

◆未だかつてスクリーンにあらわれたことのない、巨大な鉄骨が奏でる壮烈な叙事詩！

◆世界の最高到達点を往く日本の建築技術者の燃えるような執念と根性！

◆その中に誕いあげられるほのぼのとした恋！

◆そして劇映画の大型スクリーンをはじめて飾る電子計算機の世界！

◆主な出演者◆

鹿島建設会長……山村　聡　その妻直子……佐久間良子

〃　副会長……三宅　邦子　鳥村オペレーター……由村　正和

古川教授……中村　伸郎　土橋道子……藤井まゆみ

学生時代の　古川の兄・平　幹二朗　その父……中村　是好

佐伯機遣設計副長……木村　功　竹本大型工場長……渡辺　文雄

出穂営入夫・星野　伴　淳三郎

川島三井不動産社長……松本幸四郎（東宝）

江尻所長……池部　良　新珠三千代（東宝）

水野専務……佐野　周二

木下工事部長……丹波　哲郎　岡林東西石油社長……柳　永二郎

柳原鹿島建設専務……清水　元　竹本大型工場長……渡辺　文雄

◆五月中旬東映系で全国公開

製作　株式会社日本技術映画社

配給　東映株式会社

第2回鹿島平和賞受賞記念！

若い女性のために

鳩山　薫

B6判　上製・美麗カバー付208頁　定価500円

若い女性のために―皆様を大切に／婚約について／関東大震災記念日のこと／振袖／新しく入学された方々に―女子大学生への期待／挙式の心／学ぶ喜び／冷静さと忍耐を共立女子学園の同窓の皆さんに―校友会の価値へ／世の荒波にもめげず／縁談の集い他選挙のこと―候補者の代理／投票前夜・他

日ソ交歓前後―親つき訪問ダンス九十万円／施設完備のモスクワ大学／贈呈中の部屋他

友愛について―地道な運動を／平和を築く信念を／豊かな人間形成を／日本の女・他

付・女のつとめ―婦人の心得／姑の心得／夫の心得／嫁ぐる者の覚悟／死に対して・他

鹿島出版会　一〇七　東京都港区赤坂6―5―13

地方だより

各地で活気ある活動

一年の反省含め新体制も

四十三年の活動は各地で活発になされ、本紙上ですでに紹介済みであるが、各支部で一年の反省と来年度の取り組みの姿勢を示し、新体制を組み全国大会を見据えて更に一層の充実をはかっている。そこで、各地の活動を選択し掲載するとともに、これを基に全国大会での再考を機したい。

活動内容充実期す

尾形幹事長迎え懇談会

【秋田発】秋田支部（支部長＝吉家陽男君）では去る三月二十九日（土）三月の支部懇談会を開催した。

懇談会には本部より尾形幹事長をむかえ、昨年四月の支部設立以来の活動の反省と今後の運動方針及び支部の運営について討議を行なった。

以下秋田支部設立より一年間の歩みと今後の方針についての支部報告書を要約して掲載します。

〈成果〉従来個人会員数で活動していたが昨年四月、二十名の会員を以って支部を設立した。以来タンスパーティ・バス旅行、ハイキング等を通じて会員の親睦に努めた。とくに、設立記念パーティでは市内青年および留学生を招待して交流を行ない、また、収益金をはかるべきである。また、一部の役員が会議に苦慮している現状であるが、今後は、リーダーの育成をも考えるべきである。

〈反省と今後の課題〉

(1) 組織内のグループ化

レクリエーションには参加者が多いが、学習には会員が集らないことは一般的な傾向である。しかし、たとえ少人数でも、ローカリティに富んだ特色ある活動にすべきである。

また、会員の要求が多様なので、これに応えるため、支部全体活動とは別にグループの育成を考える必要がある。

(2) 組織の拡充と活動家の養成

今後は農民青年、地域内青年学生など会員の層と組織の拡大を

(3) 日常活動の充実化

継続的な日常活動がないことを反省すべきである。新年度は、毎月一回行事のほかに定例会・友愛の日（仮称）を設けて、話し合いや日常活動の場としたい。

—城北支部—

交通安全教育のための映画と講演会開く

都連城北支部（支部長＝田中英健君）では去る二月二日、王子青年館において講演会を開催した。

講演は「交通行政について」王子警察署交通係・福山利雄氏と「友愛運動」について本部・長田組織部長が担当した。

又、「青年活動」と題して〝まゆの会〟会長渡辺幸恵氏が講演した。講演終了後、講師との活発な意見交換を行ない五時散会した。

連合体の機能発揮

都連新体制で意欲示す

東京都友愛運動連合会（会長＝田中祥子さん）第十一回大会は、去る三月二十日（日）午後一時より東京音羽の鳩山会長邸はなれにおいて開催された。

今大会は、結成以来十一年目を迎えた都連は、内部的難問題が山積していたが昨年四月、二十名の会員を以って支部を設立した。以来タンスパーティ・バス旅行、ハイキング等を通じて会員の親睦に努めた。とくに、設立記念パーティでは市内青年および留学生を招待して交流を行ない、また、収益金をはかるべきである。また、一部の役員が会議に苦慮している現状であるが、今後は、リーダーの育成をも考えるべきである。

(3) 日常活動の充実化

継続的な日常活動がないことを反省すべきである。新年度は、毎月一回行事のほかに定例会・友愛の日（仮称）を設けて、話し合いや日常活動の場としたい。

—城北支部—

交通安全教育のための映画と講演会開く

都連城北支部（支部長＝田中英健君）では去る二月二日、王子青年館において講演会を開催した。

講演は「交通行政について」王子警察署交通係・福山利雄氏と「友愛運動」について本部・長田組織部長が担当した。

又、「青年活動」と題して〝まゆの会〟会長渡辺幸恵氏が講演した。講演終了後、講師との活発な意見交換を行ない五時散会した。

事業を推進、都連はそれについて側面より援助して行くものとする。

次に都連の日常活動としては、支部会員の相互交流の活発化と組織の拡充及び未開地域の組織化に対する援助、それにともない情報宣伝に努めることとする。

以上の主な事項を決議し四十四年度の都連運動方針として決定された。

なお新役員は次の通り選任された。

常任委員

渡部文雄（城西）田中英健（城北）但田弁蔵（港地部）勝正（城東）松本紘二（城南）

（委員長、事務局長は第一回常任委員会にて決定）

尚新役員は次の通り決定

支部長＝橋宏章

副支部長＝阜稲田元司、谷口美津子

幹事長＝野村卓郎

幹事＝鈴木崇夫、山口孝子、小竹淳子、上野洋

事務局長＝岡出福寿

事務局＝津葉井宏、山本純子

会計監査＝野村悠一郎、宇津忠

※事務局＝和歌山県田辺市元町二、八一五

津葉井宏方

熱と意気の支部活動

新体制でさらに発展期す

【田辺発】和歌山県田辺支部（支部長＝野村悠一郎君）では去る三月一日（土）支部総会を開き四十三年度会務報及び新年度の活動方針と新役員の改選を行なった。

会務報告のなかで二月以降の活動のもり上げてみた。

一月一日（水）「遥拝登山」

高見山頂上にて雑煮をつくり新年を祝い合った。

一月十八日（土）「友愛」の集い」市内中部公民館において、歌、ゲームに興じ一同童心にかえり楽しい一時を過ごした。

一月三十一日（金）「駅前早朝清掃」、清掃を初めて丁度満一年目、一同の眼もそろた顔は年間相変らずだが、一年間を休まず続けただけに皆感無量の面持ちであった。

二月一日（土）、「楽化一周年茶話会」、市内中部公民館にて、善意運動満一周年の慰労会を行なった。一年間の反省、苦労、それに楽しかった話などに花が咲いた。

二月十五日（土）～十六日「青年祭友情出演」

のど自慢大会、舞踊大会に出場し拍かっさいをあった。以上

尚加賀支部は昨年九月に結成以来海外派遣等の活動をはじめ、毎月の定例会を開催し活発な活動を行なっている。以下報告書による事業内容である。

九月　青年の船、根上支部代表派遣壮行会

十月　韓国親善使節団壮行会

十一月　「青少年海外派遣報告展」開く

十二月　参加

一月　新年会

二月　「友愛ボーリング大会」を開催

三月　「石川県青少年のつどい」に参加

なお四十四年度役員は次の通り改選された。

支部長　北森　竜蔵

副支部長　長田　寿博

〃　高尾　征武

事務局長　林　正通

会計局長　中西順一郎

体育部長　荒井邦一

文化部長　米一　熙子

女子部長　岡島　康子

情宣部長　北野　忠夫

※事務局　石川県能美郡根上町公民館内

地域に大きな影響

登別支部第七回大会開く

【登別発】北海道登別支部（支部長＝池畑三郎）では去る二月一日（春分の日）第七回定期大会を開催した。

登別支部は第十五回全国大会に最優秀支部賞の栄冠を獲得した支部であり本会内では勿論のこと対外的にも過去七年の実績は高く評価されており、昨年四月には登別町内の青年団体の連合会結成に成功するなどその地域に多大な刺激を残している。

四十四年度運動方針は社会教育社会福祉、郷土美化の三点に重点をおき対社会への働きかけを強め組織の拡大強化をはかり内外ともに大きな期待が寄せられている。

尚支部長は昨年同様、小池雄三君が再選された。

会社経営と日中・沖縄問題

—友愛クラブ—

友愛クラブは、去る二月十二日（水）正午と、二月、三月例会を東京ヒルトンホテルにて開催した。

二月例会には、帝国電波取締役社長滝沢左内を迎え、氏の人生哲学を中心に語り合った。

氏は、幼少時代より好奇心が強く、長野より東京へ初めて上京し化学等の知識を養じつけ、今でいう、乾電池を作り出した。当時は〝炭水力電機小箱詰〟と称して、友愛スケート教室（二十二日～二十三日　於軽井沢）

中青連第三回国際専門委員会（前十時半　於中青連事務局）

備委員会（後六時半　於本部事務所）

第十回執行部会議（後六時半　於本部事務局）

中青連事業活動委員会（後二時　於中青連事務局）

核禁会議事務局会議（後四時　於核禁事務局）

文部省補助金についての説明会（前十時　於文部省）

青少年のつどい中央大会行事委員会（後五時半　於国民会議研別会議室）

青少年総合センター〝第十回運営委員会〟（後一時半　於総合センター）

3/2　東京都青少年教育研究発表大会（後一時　於日本青年館）

第一回常任幹事会（後七時　於本部事務所）

第四回中青連委員会（後二時　於本部事務所）

青少年育成国民会議第一回評議員会（前十時　於共済会館）

東京都新生活運動推進大会（前十時　於国立劇場）

第十一回都連大会（後一時　於日本青年館）

於鳩山民部離れ）

世界青少年交流大会昭和四十四年度事業に関する説明会（後三時　於衆議院第一議員会館第三会議室）

世界青少年交流大会（前十時　於国立劇場）

日本青年海外協力隊隊員壮行会（後五時半　於協力隊講堂）

青少年とともにすすむ運動推進協議会第四回常任委員会（前十時半　於都道府県会館新活運動協会議員会（後一時半　都道府県会館大会議室）

昭和四十四年度文部省補助事業説明会（前十時　於文部省）

青少年海外協力隊隊員壮行会（後五時半　於協力隊講堂）

2/1　日鶴青年協会役員会（正午　於日民主会館）

早朝墓参会（前六時半　於谷口墓地）

第七回　友愛スキー教室（七～九日　於国際猪苗代スキー場）

中青連地別委員会（前十時　於全国町村会館）

修学旅行平和建設国民会議常任理事会（後一時　於三田友愛会館）

世界運動第四回常任中委員会（後一時　於参議院別館職員食堂）

〝第四回青少年のつどい〟中央大会打ち合せ会（後二時　於総理府議室）

友愛クラブ二月例会（正午　於東京ヒルトンホテル）

日本青年協会創立四〇周年記念式典（後一時半　於尾崎記念館）

〝第四回青少年のつどい〟行事委員会（後五時　於国民会議事務局）

万博・世界青少年文化祭事務局会議（後一時　於交流協会事務所）

〝第四回青少年のつどい〟役員打合せ会（後二時　於代々木競技場第一体育館）

青友会創立十周年記念式典（前十時　於青年館）

〝第四回あすをきずく青少年のつどい〟全国大会（後十二時半　於国立代々木競技場）体育館）

2/1　日鶴青年協会役員会（正午　於日民主会館）

早朝墓参会（前六時半　於谷口墓地）

第七回　友愛スキー教室（七～九日　於国際猪苗代スキー場）

中青連地別委員会（前十時　於全国町村会館）

修学旅行平和建設国民会議常任理事会（後一時　於三田友愛会館）

世界運動第四回常任中委員会（後一時　於参議院別館職員食堂）

〝第四回青少年のつどい〟中央大会打ち合せ会（後二時　於総理府議室）

友愛クラブ二月例会（正午　於東京ヒルトンホテル）

日本青年協会創立四〇周年記念式典（後一時　於尾崎記念館）

〝第四回青少年のつどい〟行事委員会（後五時　於国民会議事務局）

万博・世界青少年文化祭事務局会議（後一時　於交流協会事務所）

〝第四回青少年のつどい〟役員打合せ会（後二時　於代々木競技場第一体育館）

青友会創立十周年記念式典（前十時　於青年館）

〝第四回あすをきずく青少年のつどい〟全国大会（後十二時半　於国立代々木競技場）体育館）

桐生支部でスキー教室

【桐生発】群馬県桐生支部（支部長＝大谷勝義君）では去る二月十六日（日）岩場国際スキー場において「友愛スキーの集い」を開催した。

当日は好天に恵まれ、スキー講習会を初め、スキー競技等を行ない楽しい一日を過ごした。

—仲　間—

絶好のスキー日和の三月の日曜日、一路スキー場に向おうとしていた私達のスキーバスに、今だ見知らない一人の若者が迷い込んで来ました。他の団体バスに乗るはずだったそうですが間違って乗ってしまったというのです。

若者は彼に対してはよき若者という雰囲気の中に受け入れてもらいました。彼は帰る途中にこのバスに乗ったおかげで思いもよらない楽しいスキーでした」と全く私達の仲間にとけ込み即座に会員になることを約束してしまいました。

私は、この一件を見て、彼のように〝友愛〟を求めている若者が沢山いるにちがいないと、又もっともっと〝友愛〟を知ってもらうことの必要性を感じました。

私達の支部も一層頑張らねばと意を新にした次第です。

（桐生支部　友愛太郎）

名古屋支部　白いゲレンデに若さ弾ます

【名古屋発】去る二月八日（土）～九日までの二日間、名古屋支部（支部長＝武尾孝雄君）主催のスキー教室を開いた。

会場の飯高高原スキー場は、到着の日から雪が降り始め、新雪に恵まれ良好のコンデションに参加者各々、スキーのたのしさに満足した様であった。又民宿を利用しての合宿であったので、安くおまけに宴会もあり楽しいスキー教室であった。

小樽支部活動報告

【小樽発】北海道小樽支部（支部長＝高橋幸吉君）では、新年の行事として去る一月十九日（日）会員の新年の顔合わせとして「新年カルタ会」を開き親睦を深めて、又、一月二十日（水）には、支部活動資金を捻出する為の「新年ダンスパーティ」を開催、翌二十三日（木）には大谷勝義を開催し二日の行事を終えた。

創業25年余の伝統と技術を誇る！
特殊切削工具メーカー
森山精密工具　株式会社
取締役社長　五十嵐省吾
本社工場　東京都品川区西大井6－14－3　TEL（03）774－0881（代）
第2工場　東京都品川区豊町2－8－7　TEL（03）783－6405
営業所　東京都墨田区東向島6－52－5　TEL（03）614－4197（代）

綜合警備・各種建築内外清掃
ボイラー・電気保守管理業
指定　北海道教育委員会・札幌市教育委員会
釧路市教育委員会・釧路市教育委員会
株式会社日本製鋼所
東洋実業株式会社
代表取締役　吉川昭市
副社長　向田忠一
本社　札幌市南1条南2丁目（御御ビル8階）
電話　代表25－2211内線219
直通26－9520・9521夜間直通25－2217
営業所　釧路・帯広・釧路・苫小牧・岩見沢

営業品目
機械部　電子計算機・電子複写機・タイムレコーダー・ベルタイマー
合成品部　ビニール・プラスティック・ポリエチレン製品の製造及加工
紙業部　紙袋・包装紙印刷・洋紙特殊紙・その他・紙工品
自動車部　ホンダ　N360・ホンダニ輪車・自動車損害保険
特販部　コピー用紙（電子・ジアゾー・ゼロックス）現像液・トナー・青写真
ニッセー株式会社
東京都千代田区外神田4丁目5番4号
電話東京（03）253－7581（代）

目業品業営
アスファルト系舗装工事
セメント系舗装工事
其の他各種舗装工事
舗装に付帯する各工事
株式会社　中嶋組
取締役社長　中嶋信行
東京都世田谷区玉川中町二の五九
電話（700）一三一～四番